

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	店舗再生による持続可能な地域課題の解決
資金分配団体名:	公益財団法人東近江三方よし基金
実行団体名:	愛のまち合同会社
実施時期:	2021年5月～2022年3月
事業対象地域:	滋賀県東近江市
事業対象者:	交通弱者である高齢者や障がい者等の買い物難民、コロナ禍で人とのふれあいが失われた住民、ニートや引きこもり等の若者、農作物や手づくり品の生産者

Version 3.2

日付: 2022年3月11日

I. 事業概要

事業実施概要	<p>高齢者や障がい者等の交通弱者にとって、身近に生活の必需品を買い求める店は、命を支えるだけでなく店に行くことで人との交流が生まれる唯一の場所でもあった。特にコロナ禍においては、自治会の集いの場や行事が中止されるなど、家に引きこもりの状態にあり、健康にも支障をきたしている。本事業によってスーパーを再建し、交流スペースを設置した結果、客足が再び戻りつつある他、従来以上に多世代での利用がみられるようになった。また、交流スペースを活用した各種イベントや教室等を通じて利用促進を図っており、今後はイベントを通して交流が生まれ、店舗を核に集落や世代を超えた新たなコミュニティが生まれることを期待したい。</p> <p>店舗再生にあたっては、地域住民が客として利用するだけでなく、働き場としての価値も高め地域全体で支える体制づくりをめざしている。そこで、中間就労の場で作られた野菜やおにぎりや味噌、子育て女性が働きやすい時間を考慮した就労の場の提供、地場産コーナー設置等工夫を行っている。</p> <p>また、今後、移動手段がない人たちの増加が見込まれる中、移動販売・宅配サービスを店舗再建に併せて実施したことで利用してもらおう上での課題等も明らかとなり、柔軟に対応してきた。店舗に来てもらうための送迎サービスは自治会単位での検討を行っているところである。</p>
--------	---

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<p>予定通り店舗改修を行い8月27日にオープンした。店舗内には、生鮮食品や一般商品等、暮らしに必要な品揃えを行った。また、新たに交流スペースを設け、食事や休憩の場、交流やイベントの場としての活用が始まっている。10月からは別法人が「ヘルス&ワーク倶楽部」を平日の午前中に交流スペースを使って健康づくりを行う事業もスタートした。9月6日からは愛東地区の自治会を週1回巡回する「移送販売車」もスタートし、買い物難民の利用が始まっている。また、外出困難な人への宅配事業もスタートし、どのような状況でも暮らしに必要な食料品や一般商品が確保できる体制になった。</p>
-------------------	--

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
その他	その他	店舗の改修が終わり、スーパーが営業している。	一日の買い物客数	平均 200人/日	8月27日から毎日営業を行っている。これまでのところ来客者数は、平均170人/日ほどで目標に向け、チラシの発行やイベント開催、売り場棚の増設、地元産品の強化など行っている。	スーパーが2年振りに復活したことで、愛東地区内を主に買い物客が来訪している。特に旧店舗に比べ若い層の利用が増えており、多世代が利用する店づくりが出来てきた。まだ以前の来客数に戻っていないことから、多様な情報発信とサービスの展開、特徴ある商品の開発を進める必要がある。
その他	その他	移動手段がない人に、宅配サービスや移動販売、送迎サービスが始まっている。	宅配サービス・移動販売・送迎サービスの利用実績数	平均 30人/日	9月6日から週1回全自治会を回る移動販売を開始。11月27日からは、電動バイクでの宅配事業も始まった。送迎サービスはコロナ禍で各自治会との連携が進んでいない。・平均 30人/日	移動販売開始から4か月経って、駐車場や待機時間、商品内容等の課題を整理し、可能なことから変更して行っている。より人が集まる場所への巡回の検討も進めている。宅配サービスは、コロナ禍において利用が進んでいる。送迎サービスは各自治会のしあわせホームで高齢者が集まるようになれば利用を推進したい。
その他	居場所の不足	交流スペースが利用され、新たな交流や活動が芽生えている。	交流スペース利用者数	平均 35人/日	イートインや休憩、イベントなどの利用が行われ、平日の午前中は別法人による健康教室が10月からスタートしている。利用平均は15人/日程度で、日々の利用やイベント利用で普及を進める。	イートインとしては、昼間の食事を中心に利用が進んでいる。11月から交流スペースを使ったイベントの開催を行い、利用促進を図っている。その結果、教室利用や会合利用などの申し込みが生まれている。健康教室は平日の午前中に行われており、送迎付きで帰りには買い物利用もされている。
その他	就業困難	中間就労の若者が作った商品が販売されている	販売物の出荷数	販売額 月平均 100,000円/月	あいとうふくしモールの若者支援事業が行う「おにぎりや弁当」「野菜」が出荷されている。販売額はオープン平均して約100,000円となっている。	若者支援で取り組む「おにぎりや弁当」が週4日出荷され、野菜はその時々で採れる生産物が出されている。毎年2月に漬け込んでいる味噌もパック詰めにして常時販売されており、生産意欲の向上と売り上げに貢献している。

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパーが再開され、生活用品が身近に買えたり、配達されたりすることで暮らしに安心感が生まれている。 ・スーパーに行くと店員や買い物客が親しく話しかけ、交流スペースでは休憩や食事、団らんができ、店に行くことが楽しみになっている。 ・スーパーには買い物客の他にも交流スペースを利用したミーティングやイベント、教室など多世代の利用が生まれている。 ・中間就労の若者が作った農作物や加工品が出荷されている。
----------------	---

考察等	スーパーを再開したことで、買い物に不自由していた人をはじめ、近くにできたことで多くの住民にとっての安心度が高まった。また、移動販売や宅配サービスによって、買い物に行き難い人の不安解消にもつながっている。買い物に来た人には、知り合いや店員との会話が生まれ、交流スペースでの休憩も新たな役割を果たしている。日曜日のイベントや利用者主体の利用なども広がっており、交流の場としての機能をさらに深めていきたい。中間就労の若者による農作物や加工品は常時店頭に並んでいる状態になっており、更に活動の促進につながるよう連携していきたい。
------------	--

V. 活動

活動	進捗	概要
その1. 暮らしに寄り添った買い物サービスを実施	ほぼ計画通り	移動販売は9月6日から地区内の自治会を週1回巡回する計画でスタートした。宅配サービスは、電動スクーターを利用し、注文に応じて1日2回配達するサービスとして11月27日にスタートした。送迎サービスはコロナ禍において、各自治会の宅老所（しあわせホーム）が開催されておらず、開催され次第連携して進めていく計画である。
その2. 住民が楽しく集える相互安否確認の場に	計画通り	相談窓口としてふくしモールの職員を週1回常駐して、困りごとの相談に応じる体制を作っている。
その3. 交流スペースが多用途に利用される	計画通り	イートインの利用や休憩に主に使われている。その他、11月から毎週日曜日は地域の人と教室やマルシェなどのイベントを開催している。また、合同会社集落による介護予防・日常生活支援として、「ヘルス&ワーク倶楽部」が10月からスタートした。
その4. 多様な働き場の提供する	計画通り	あいとうふくしモールと連携し、引きこもりやニートの若者を対象に行っている中間就労の場で作られた野菜やおにぎり、味噌を店舗で販売している。子育て女性には、週3日や時間を考慮した就労の場を提供している。
その5. 住民の手づくり品が並ぶ	計画通り	オープン以降、野菜や手作り加工品等の出店も増えており、地元産コーナーを設けて販売の促進を行っている。
その6. 防災時の物資供給拠点として	計画通り	食料品を中心に生活用品が揃うことから、災害時に対応できる体制を進めている。

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	特になし
----------------------------	------

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	<p>コロナ感染状況の改善が見られず、各自治会で開催されていた高齢者の寄り合いの場が復活せず、各種行事は中止され、近所や友人間の日々の往来も出来ない状況が続いている。こうした中で、日常の暮らしを支える買い物が近くで出来ることは安心感を高めることとなった。また開店後始めた移動販売や宅配サービスは、個々の状況に応じて利用できることから買い物の選択肢が選べる結果となり、重宝がられている。</p> <p>中間就労の場を運営するあいとうふくしモールでは、若者たちと作るおにぎりや加工品、野菜の売り場が増えたことでやりがいと収益増にもつながっている。今後、店舗利用者の拡大を図るため、まだ進んでいない自治会や団体と連携した送迎サービス等、日常の暮らしに寄り添うより充実したサービスの展開を図っていく。また、交流スペースの多様な活用をすすめ、多世代のコミュニティを育む場としていきたい。</p>
------------------	--

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
愛東の暮らし・つながり創造会議	検討時から進めてきた有志の団体で、開店後も継続して運営状況の報告を行い、集客イベントや広報活動、宅配事業等の応援をいただいている。
愛東地区まちづくり協議会	まちづくり協議会発行の広報紙への掲載やイベントの協力・支援をいただいている。
あいとうふくしモール運営委員会	若者支援の加工物や生産物の販売や困りごと解決の相談窓口設置などで連携・協力している。
合同会社集楽	平日の午前中に交流スペースを利用した介護予防と健康づくりを目的としたヘルス&ワーク事業を開催して、購買にもつなげていただいている。

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	16,577,000	16,577,000	100.0%
	管理的経費	0	0	#DIV/0!
合計		16,577,000	16,577,000	100.0%

補足説明	特になし
-------------	------

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	中日新聞 8/27、8/28（滋賀版で掲載）、読売新聞 8/28（滋賀版で掲載）、京都新聞 9/2（滋賀版で掲載）、NHK放送 8/27（関西地区で放送）、びわこ新聞 10/1（新聞折込） スマイルネット オープン1年前追跡取材しながら放送、オープン後30分番組に編集され放送、KBSラジオ「ほっかほかラジオ」出演
2.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの	該当なし
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例）	該当なし
4.報告書等	該当なし

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績 ※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む)	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	定款、就業規則、給与規定
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	未公開	HPがないため発表していないが、求められれば開示できる用意はしている。
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置しましたか。	はい	
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 外部監査 <input type="checkbox"/> 内部監査 <input type="checkbox"/> 実施予定はない	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	

XII. その他

自由記述